両関取のように

第１回宝富士杯・阿武咲杯争奪小中学校相撲大会

合併10周年を記念して、「東日本小中学校相撲中泊大会」から名称が変更された「宝富士杯・阿武咲杯争奪小中学校相撲大会」が８月30日㈰に行われ、県内の児童生徒が出場しました。大会には宝富士関と阿武咲関が招待され、開会式では「優勝を目指して正々堂々と取り組んでください」と激励しました。

団体戦は、小学校低学年と高学年、中学校の部で行われ、県内の計29チームが参加。小学校１年から中学校３年までの学年別個人戦には県内の児童生徒98人が出場しました。

両関取は審判席に座り子どもたちの取り組みを真剣な目で見ていました。小学校６年と中学校３年の個人戦優勝者には、両関取からそれぞれ優勝カップが手渡されました。

気迫十分な取り組み

日常生活から生まれた思い

第３回少年の主張大会

町青少年問題協議会が主催する中泊町少年の主張大会が、８月27日㈭総合文化センターパルナスで開かれました。大会には、管内各小学校６年生４人、中学校１・２年生４人計８人がそれぞれの思いを発表しました。

会場には、同じ学年の小・中学生や教員、大会関係者約300人が発表者を見守りました。開会では、同協議会・会長である小野町長が「このような大勢の人前で発表することだけでも大変なこと、とても緊張していると思うが、堂々と発表し、この経験を自信に変えて欲しい」と激励しました。主張は小学校６年、中学校１・２年の順で行われました。

すばらしい発表をした児童生徒たち

■小学校の部

中里小６年　田中亜依「中里の伝統芸能」…中里の伝統芸能を練習する伝承部に所属。そこでの練習を通して感じた伝統芸能が途絶えないための方法を提案。

武田小６年　佐藤詩恩「動物を飼うということ」…捨て猫を飼い始めて感じた、動物を飼う覚悟と責任の重要性を日本や外国の具体的な取り組みを紹介しながら発表。

薄市小６年　秋元菜月「言葉の大切さ」…８人学級でもおこるけんかやもめごと。その理由を考えて気づいたことは、伝え方や言い方で受け取り方が大きく変わる言葉の大切さ。

小泊小６年　薮田佳那瑠「わたしの夢とつながる歯」…保健委員会の活動を通じて歯の大切さを学び、その歯は自分の夢である和菓子職人へとつながっていることを発表。

■中学校の部

中里中１年　長利絢捺「中学生といじめ」…いじめが原因で自殺する人がいる。いじめをなくすためになにができるのか。自殺、いじめは絶対にしてはならない。

小泊中１年　中村きらり「ありがとう」…亡くなった大好きなひいおじいさんの思い出と、お年寄りが楽しい老後を送れるお手伝いをするために介護士になる決意を発表。

中里中２年　加藤優成「いじめをなくすために」…中里中学校のいじめ防止の活動を通して深く考えるようになったいじめ。お互いが相手の気持ちになって考える「想像する力」が大事。

小泊中２年　川山雄生「努力のすばらしさ」…ケガをしている間にも人一倍野球の練習をし、初めてのヒットを打つことが出来た。必死になれるものや努力の大切さについて思ったこと。

広報 なかどまり 10月号
発行／青森県北津軽郡中泊町　中泊町役場　編集／総務課　☎0173(57)2111 内線162 http://www.town.nakadomari.lg.jp/